

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600657		
法人名	株式会社 創生事業団		
事業所名	グッドケア・新中野 はすかつぶ館		
所在地	北海道苫小牧市新中野町1丁目3番20号		
自己評価作成日	令和3年2月21日	評価結果市町村受理日	令和3年4月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600657-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和3年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と職員の会話も多く、「笑顔の絶えない明るく家庭的なホーム」作りを心掛けている。併設した小規模多機能ホームとの交流、季節ごとの行事、近隣公園への散歩、買い物、外食、地域のお祭りへの参加、地域の幼稚園との交流等、利用者様の希望に添った支援ができるよう、ご家族様、ボランティア地域の方々の協力を頂き毎日元気に笑顔のある生活を送ることができるよう努力している。運営推進会議も小規模多機能ホームと合同で実施しているため、単体で行うより活発な意見交換が行われている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR苫小牧駅から車で10分ほどの場所の静かな住宅地に位置し、2階建ての建物に2ユニットの事業所と同一法人の小規模多機能事業所が併設している。理念にある地域の温もりの中で利用者が自分らしい暮らしができるように管理者と職員は日々笑顔で接している。利用者は併設の事業所行事のフラダンスや大正琴などを楽しみながら交流したり、事業所の夏祭りには地域の人も参加する等、また、多種のボランティアが来訪し、ウクレレ演奏、日本舞踊などで利用者が外部の人と触れ合う機会も多かったが、現在はコロナ禍により全て自粛している。管理者は感染症予防対策に力を注ぐために何かあれば市役所に出かけて担当者のアドバイスを受け運営に反映させている。協力医の指導の下で看護職員を中心に看取りも実施し、看取り後にケアの振り返りで感じ取った思いなどを各職員が報告書を作成して共有している。日々の暮らしで利用者は誕生日に好みの料理を楽しみ、レクリエーションのおやつ作りに参加している。共用空間は感染症予防の為に定期的な温度・湿度管理や換気、直接接する物へのアルコール消毒と、利用者や職員全員の安心安全な生活空間が保たれるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・リビングに掲示し、常に意識できる環境に努め、サービスの向上に努めている。	事業所理念は事務所や居間に掲げている。職員は、研修会や会議等で理念を理解し、利用者のサービスに反映させている。	事業所理念の見直しは運営母体が代わる前より検討していたが、これを機に、感染症予防対策強化や福祉の世界の移り変わりなどの世情を考慮しながら、職員全員で新たな理念を作成する事を期待する。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、防災訓練などに協力していたり、交流を図っている。	コロナ禍により町内会の行事やボランティア交流は自粛しているが、月1回の町内の古紙回収に参加している。町内回覧用の通信を作成し来年度以降に回覧し、事業所状況を知ってもらうよう努める。留寿都高校の学生が先生の指示で来訪していたが、コロナ禍で自粛している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などでホームとしての取り組みを報告している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、小規模多機能ホームの管理者が中心となり、町内会や行政、地域包括の協力を得て、市の取り組みや社会協議福祉会の取り組みなど勉強の場ともなっている。	コロナ禍の為、運営推進会議の代わりに参加者全員に書面会議として2ヶ月毎に開催している。利用状況や活動内容報告等の報告書を送付し意見や要望を得て、運営に反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活支援課の担当者とは月に1度、介護福祉課の担当者とは2か月に1度の運営推進会議に来て頂いたりし協力関係を築けるよう努めている。	市担当者とは、事業所の実情やケアサービスの取り組みや感染症予防対策について、電話でやり取りしながら協力関係を築くように取り組んでいる。コロナ禍で直接の面談は自粛しながら、書類等の相談や助言を得ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の鍵を開錠している。また、個々の状況に応じ安全に生活できる環境づくりを行い、見守り強化する事により危険防止に努め身体拘束のないケアに取り組んでいる。	3か月毎に身体拘束廃止適正委員会を開催して、拘束となる行為とそれに伴う弊害は全職員理解し、拘束をしないで利用者の安全を配慮するケアの提供に努めている。外に出たい利用者には付き添って歩く等、利用者が落ち着くのを待つ丁寧なケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、会議の場でも意見交換、情報の共有を図ることで虐待を見逃すことが無いよう取り組んでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修を行い、必要な入居者様には活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書、重要事項説明書を読み上げ、十分に理解、納得を得られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて要望を確認したり、面会や電話にて要望を聞く機会を設け、連絡ノートや会議で情報の共有を図り反映できるよう努めている。	コロナ禍で家族との面談は制限されており、電話や毎月の通信に手紙を添えながら、意見や要望を聴くようにしている。利用者からは日々の会話から意見や要望を聴き、得られた内容は連絡ノートに記載して職員で共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノートの活用や全体会議で意見や提案を聴き、反映できるようにし、本社には会議の議事録を送り意見を聞いてもらえるようにしている。	管理者は朝夕の申し送り時や全体会議、ユニット会議で、職員の意見や要望を汲みあげるよう努めている。年2回の個人面談があり、面談では職員の個人チェック表や要望・意見を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年の昇給や特別処遇改善加算等の取得にて賃金改善に充てている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修参加に取り組み、職員の要望に合った研修を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会の研修などに参加し、交流を図ったり、情報交換を行いサービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様から得た情報を元に生活歴の把握に努め入居者様の要望をケアに反映できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始まで、ご家族様と密に連絡を取り、不安な事や要望を聴き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ごご家族様やご本人様の状況把握に努め意向を確認しながら適切な支援を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎月のユニット会議にて、入居者様の心情などを確認し合い、できる事・出来ない事の見極めを行い支援の方法を検討している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議の呼びかけや面会時、電話・通信の発行でホームの様子をお伝えし、ともに支え合う関係づくりを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が気軽に面会できるようご家族様にも協力して頂きながら、支援に努めている。	家族や友人・知人の面会や馴染みの場所への外出等はコロナ禍により自粛している。馴染みの理美容師は2ヶ月に1回来訪し、利用者との馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を見極め、孤立しないよう配慮し、時には職員が介入し支え合えるような支援を行うよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談などに応じれることをお伝えしたり、ご本人様の状況をお聞きするなどの支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の言葉を大切に、思いを聞き入れ会議で情報の共有を行い、「本人本位」になるよう検討している	職員は、利用者との日常的接触から思いや意向を把握しているが、困難な場合は利用者に思っていることを記録に残したり、家族からの情報や職員間の相談などで情報を共有し、できる限り利用者の希望に沿うよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人様より情報を収集したり、普段の関わりの中で得た情報の共有を行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様のできる事や難しくなってきたこと、支援があればできる事を職員間で情報の共有を行い、現状に適したケアを行っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員・他職員・看護師より意見を出してもらい、毎月話し合い、介護計画を検討している。また、ご家族様からも要望をお聞きし反映できるよう努めている。	家族や利用者の意向を取り入れながら、モニタリングや会議で出た意見を基に、短期6か月、長期1年で見直して介護計画を作成し家族の承認を得ている。また、特段の体調変化が見られるときには随時対応して、常に現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や連絡ノートにて日々の情報の共有を行い現状の把握に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じ、柔軟な支援が取り組めるようにしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて地域資源の活用が難しい状況ではあるが、平常時にはボランティアなどに来て頂き楽しんで頂けるよう支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様やご本人様の希望をお聞きし、協力病院への往診へ切り替えたり、かかりつけ医にいつでも行けるよう支援し、適切な医療が受けられるよう支援している	利用者と家族の希望に添ってかかりつけ医に継続して受診できるように支援している。常勤の看護師により、利用者の健康管理を行っており、月2回の協力医による訪問診療を行っている。協力医とは24時間体制で緊急時の対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤で看護師を配置し、入居者様の健康管理や、医療面での相談、助言を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会に行き、ご本人様の状況の把握に努め、病院側と連携を取り情報交換、相談を行い、信頼関係が築けるようにしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における指針を定め、ご家族様より同意を得ている。終末期には、最後まで家庭らしい環境で過ごして頂けるように取り組んでいる。	重度化と終末期の支援については、指針が策定されており、入居時に利用者と家族に明示し同意を得ている。重度化や終末期になった場合、医師や訪問看護師、家族・職員が連携協力し安らかな看取りを行っている。職員は、緊急時や終末期のケアなど研修会を通して学び支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを整備し、研修を行い周知している。訓練も実際に行い実践を身に付けられるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、小規模多機能ホーム、地域に協力して頂き合同訓練を行っている。又、ホーム単独でも避難訓練を行い全職員が身につけられるよう取り組んでいる。	コロナ禍により消防署職員や地域住民の参加自粛の上で、年2回以上の自主避難訓練を隣接している小規模多機能事業所と合同で実施している。備蓄品の食料や飲料類は1週間分あり、定期的に確認している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの声掛けの方法など職員間で共有し、人格の尊重、プライバシーへの配慮を心掛けている	利用者に対して制止するような言葉かけを行わないよう気をつけているほか、呼び方にも配慮している。トイレ誘導や入浴時など、傷つけないように利用者に優しく接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が答えやすい、選択できるような声掛けを働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせ、その日の気分や体調に配慮しながら、希望に沿った過ごし方ができるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容に来てもらったり、洋服を選んで頂く等の支援を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の食器拭きやお盆拭きを職員と共に行ったり、お膳の配下膳を自身で行って頂く等している。	献立は法人の栄養管理者が作成し、食材は法人指定の業者より納入される。月2回利用者の希望を聞きながら献立を行事担当者が考え、食材を購入し、利用者に食事の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録し、個別の必要水分量の把握を行っており確保できるよう工夫している。好みに応じた食材や飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに声掛けを行い、ご本人様の状況に応じた支援を行い口腔内の衛生に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を一番に考え、排泄パターンの把握に努め、必要な支援を行っている。	排泄チェック表をもとにパターンを把握し、トイレ誘導して出来るだけトイレでの排泄を促している。夜間の場合もトイレ誘導やポータブルトイレを利用して、排泄の自立を推進している。リハビリパンツやパット等、状態に合わせた排泄用品で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫をし、又マッサージや運動を行い、個別に応じた便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴されていない期間の把握を行ったり、希望に応じ入浴が出来るよう支援している。	基本週2回の入浴となっているが、利用者の希望に沿っていつでも入れるよう支援している。入浴剤を入れるなどで気分を変える入浴になるよう工夫している。感染症予防の為、足ふきマットは都度交換している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に応じ、適宜休息が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	支援記録ファイル内に処方箋を綴り、すぐに確認できるようにし、内服時は2人で声出し確認を行い、ご本人様にも確認して頂き誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や楽しみごとを把握し、楽しい時間を過ごせるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って買い物や散歩に出かけているが、今年度はコロナの影響で散歩のみとなっている。	コロナ禍によりドライブや遠方の外出支援は自粛しているが、少しでも外気を感じ取ってもらうためにも散歩できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様とご家族様で話し合い、数名は自分でお金を少額管理されているが、基本買い物時は職員が見守り支払いを行ってもらよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、いつでも電話が出来るよう支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに季節を感じれる装飾品を飾り、温度計で毎日室温を確認し居心地の良い空間が作れるよう工夫している。	居間兼食堂の様子が台所から見られ、利用者の寛いでいる姿が見られる。居間や廊下には季節感ある張絵等が飾り付けられている。各居室には加湿器が設置されており、利用者の健康面に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置に配慮したり、気の合った入居者様同士と一緒に過ごせる環境づくりに工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具などは使い慣れたものを持参して頂けるようご家族様と相談し、ご本人様が安心して過ごせるよう工夫している	居室にはパネルヒーターとクローゼットが備えられ、利用者と家族は馴染みのある家具類を持ち込み、家族や思い出の写真等が飾られていて、利用者が安心できる空間作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には解るよう目印をつけたり、エレベーターや廊下には手すりを設置し安全に自身で移動できるよう工夫している。		